Interview

宇宙は生物が夢をみる場所

多摩六都科学館館長　髙柳雄一さん

小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市の5市で運営されている多摩六都科学館（西東京市）は昨年7月プラネタリウムがリニューアルオープン。最新型プラネタリウム「ケイロンⅡ」が「最も先進的なプラネタリウム」としてギネス世界記録に認定された。23mを超える大型ドームでは世界初となる高輝度LED光源を採用。18等級まで約1億4千万個の星空を映し出す圧巻のスケール。夏の夜空に現れるあの「天の川」も微小な星の集合として見ることができます。この1年で過去最高の来館者数になり、3月には展示室もリニューアル。今、子どもたちだけではなく大人にも人気のスポットになっています。今回は科学館の顔である、館長の髙柳雄一さんに話を伺いました。折しも七夕の日に。

★生きていることの凄さを子どもの時に見つけてほしい

「都心には大規模な博物館、科学館がありますが、ここは地域性を活かした、適正規模のいい科学館です。私も館長になる前に初めて来て、素晴らしい施設だと思いました。5市で運営するという体制もユニークですね」と髙柳さん。

館長になって10年目。現場が好きで、館長室を飛び出して展示室やプラネタリウムに出向き、来館者とコミュニケーションをとるようにしています。

「子どもの質問は鋭いですね。ものの見方が柔軟であることは生きてゆく上ですごく大切なことです。子どもによって興味の対象はさまざまですが、自由にものを見ることで科学的な見方ができるようになる。科学館に来れば同じ仲間に出会えるんですよ。生きている上で、いろいろな世界と係わり、こんな面白い世界もあるんだと気付いてほしい。大事なものを見失わないように、生きていることの凄さを子どもの時に見つけてほしいですね」

人は一人では生きられない。地球や星、そして親や周りの人々、みんなと一緒に生きている。私たちの存在の起源は宇宙にあり、小さな自分の存在は、実は大きな宇宙という存在に支えられているという不思議。「お互いに生かされていると感じることは豊かで、ほのぼのとしているじゃない」と楽しげに笑う館長さん。

館内エントランス・ホールの真上に設置されている宇宙探査機「ボイジャー」の前で

ボイジャーは実物大の模型。1977年に打ち上げられ、36年を経た今も地球から18億km離れた太陽系の果てを航行中、観測データを送り続けている。人間が宇宙に送り出した最遠の人工物体。

★空襲の夜空に見た星が原体験

髙柳さんは富山県の生まれ。初めて宇宙の星を強く意識したのが6歳の時、富山大空襲の夜のことでした。焼夷弾投下で火の海の中、母に連れられ道路脇の溝に逃げ込んだ。溝近くの大木が燃え上がり、「倒れてきたら死ぬ」という恐怖に耐えながら見た夜空の明るい星一つ。「あの星が見えている間は、自分は死なない」と祈るような気持ちで、星とともに朝を迎えたといいます。今も脳裏にはっきりと残るこの体験が、「ともに生きる宇宙」を考える根底となり、その後の仕事につながっています。

東京大学大学院（天文学）を卒業後、NHKに入り、最初の10年間は科学の全分野にわたり、教育番組を担当。その後総合テレビで天文・宇宙のテーマを中心とした科学番組制作を手がけました。1990年春から放送されたNHKスペシャル「銀河宇宙オデッセイ」シリーズを記憶している方も多いことでしょう。番組の作り手として一番大切にしてきたことは、視聴

者に「その話を聞きたいと感じさせる場を作りだす伝え方」。知識や情報の伝達には活字メディアの方がはるかに有効ですが、テレビではそれらには無い特性を活かすべきだと考えていました。

「あっ面白そう」だとか「今、やっているのは何だろう」とか興味を抱かせる伝え方。知識や情報だけを伝えるのではなく、話し手の表情や動作、声に含まれる心の動きまで伝えることができるからです。メディアには伝え方に、それぞれの役割があることを教えていただきました。

★未来へ継承していく科学館

実際、この科学館のプラネタリウムで壮大な星空を体験すると感動します。映像プログラムでは自分が宇宙旅行をした気分になります。夏の夜空を代表するのは「夏の大三角」といわれる3つの一等星。こと座のベガとわし座のアルタイルとはくちょう座のデネブです。「一等星だけでもいいので、星座の配置を覚えると夜空を楽しめますよ。年末には明るいアイソン彗星がやってきます」

展示室も大昆虫展（9/1まで）をはじめ、夏休みは教室やイベントがいっぱい。ボランティアスタッフも約90名が登録し、サポートしています。

「メディアの仕事では一方通行でしたが、ここではいろんなコミュニティや世代、立場の人たちとコミュニケーションできます。自分が身につけたものを、元気なうちに社会に伝えていきたいですし、それに共鳴してくれる人がいるなら大変幸せなことですね。ぜひ一度は出会いがあるこの科学館へいらしてください」

多摩六都科学館は利用者やスタッフみんながコミュニケーションをとりながら作っていく場所。子どもたちが未来へ継承していく私たちの科学館です。

▼高柳雄一（たかやなぎ・ゆういち）

1939年生まれ。1964年東京大学理学部物理理学科卒業。1966年東京大学大学院理学系研究科修士課程修了後日本放送協会（NHK）へ入局。主に科学系教育番組を手がける。1980年から2年間、米国放送協会（BBC）へ出向。その後NHKスペシャル番組部チーフ・プロデューサーを歴任、1994年からNHK解説委員。2001年から高エネルギー加速器研究機構教授、電気通信大学共同研究センター教授を経て2004年に多摩六都科学館館長に就任。主な著書に「創造の種」（NTT出版）「火星着陸」（NHK出版）「天体の狩人」（ペネッセ・コーポレーション）